

前回の静岡県河川審議会での主な委員意見について

| No. | 委員意見 | 分類 |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| ① | 浸水被害はなくとも、急傾斜地の非常に急勾配な河川であるため、土砂災害の特徴や危険性を記述するべきではないか。 | 防災 |
| ② | 河川のはん濫による被害記録が無いとはいえ、土砂災害が懸念されるのであれば、土砂災害のリスクがある地域であることを明記するべきである。 | 防災 |
| ③ | 3水系とも、似通った河川で特徴付けがしづらい河川であるが、何らかのキーワード等で特徴づけができるとうい。 | 全般 |
| ④ | 高齢者人口が多く、観光客（外国人含）が多い地域性を考慮すると、ソフト対策が重要な地域である。 | 防災 |
| ⑤ | 情報提供にあたっては、情報を受け取る側の住民が、情報を受け取って自主的に動くよう、どんなアイデアを出すかが課題である。津波を例にとれば、高い所に避難する必要に迫られたとき、スマートフォンを使って自分の居る場所の標高を知るなど、何か工夫のしどころがあるのではないか。 | 防災 |
| ⑥ | 津波が短時間で到達する地域であることを考えると、海岸でのハード整備だけでなく、津波に対する垂直避難情報などのソフト対策も重要になってくる。津波防災と街づくりを考える観点から、行政施策として建物の耐震性など合わせて取り組んでほしい。 | 防災 |
| ⑦ | 河口部で海岸とアクセスできない課題があるが、水門整備の際にこれら現状の課題点にも配慮してほしい。 | 利用 |
| ⑧ | 現状の河川環境の特徴として、連続性が遮断されているが、河口部には海と回遊する種が生息している。限定された区間であるが、感潮域を保全するような河床高の設定や、砂・礫河床など、人工的な環境の中で現存している生息環境の保全を考慮するべきである。 | 環境 |
| ⑨ | 河口部に水門を整備する際には、河川の連続性への配慮や、現地が観光地であることを受けて、水門の構造を勉強して取り組んでほしい。 | 環境 景観 |